

## <日米韓>初の合同演習…朝鮮半島南沖で21・22日

毎日新聞 6月14日(木)10時30分配信

【ワシントン古本陽荘】米国防総省は13日、朝鮮半島周辺海域で日米韓3カ国による海上合同軍事演習を実施すると発表した。これまで米韓合同演習に海上自衛官がオブザーバーで参加したことなどはあるが、日米韓3カ国による本格的な合同演習は今回が初めてとなる。北朝鮮に対し、核実験や長距離弾道ミサイルの開発など挑発的な行動を取らないよう3カ国が連携し圧力を高めるとともに、中国の海洋進出活発化をけん制する狙いがある模様だ。

国防総省によると、訓練は21、22日の2日間で、朝鮮半島南方の公海上で実施する。米韓両海軍と海上自衛隊の間の相互運用性や、通信能力の向上を図ることに重点を置いた内容で、同省は「(大量破壊兵器の拡散防止などを旨とする)海上保安活動や災害救援での連携向上に資する」と説明している。

米軍は米海軍横須賀基地(神奈川県)を事実上の母港とする原子力空母ジョージ・ワシントンも投入する。

3カ国の訓練に続いて、米韓両国は23～25日、北朝鮮海域に近い黄海で合同演習を行う。

日米韓3カ国の合同軍事演習は、北朝鮮による魚雷で韓国海軍哨戒艦「天安(チョンアン)」が沈没し、死者・行方不明者46人を出した10年3月の事件を受け、検討が始まった。

だが、過去の日本の植民地支配などを背景とした韓国の慎重論にも配慮。10年7月の米韓合同演習に海上自衛官が米艦艇に乗り込む形のオブザーバーとして参加し、さらに、同年12月の日米演習に韓国軍がオブザーバー参加し、日米韓3カ国の連携を示してきた。

こうした実績を重ねてきたことや、北朝鮮の国際社会に対する挑発的な姿勢に変化が見られないことなどから、日米韓による本格的な合同演習実施に踏み切ったものとみられる。

北朝鮮は4月に「人工衛星打ち上げ」を名目に長距離弾道ミサイルを発射したが失敗。同月改正した憲法で、自国を「核保有国」と明記した。また、朝鮮人民軍創建80周年を迎え、全国で軍民大会を開催し、韓国の李明博(イ・ミョンバク)政権批判を展開。5月中旬以降は戦闘機の出撃回数が増え、韓国空軍が緊急発進するなど緊張が高まっている。

## 朝鮮半島沖で初の合同軍事演習 日米韓が21、22日に

2012.6.14 22:30 [韓国] 産経ニュース

【ワシントン=佐々木類、ソウル=加藤達也】米国防総省は13日、米韓の海軍と日本の海上自衛隊が今月21、22の両日、朝鮮半島周辺海域の公海で合同軍事演習を行うと発表した。

米韓軍事演習をめぐっては2010年7月、海上自衛官がオブザーバーとして米空母ジョージ・ワシントンに乗船、見学したことはあるが、海自の艦船が参加して日米韓3カ国が合同軍事演習を行うのは初めて。韓国海軍と海上自衛隊の相互運用性や情報伝達を向上させ、海難事故対応や海事の安全確保における協力を促進するのが狙いだ。

米海軍は3カ国の合同演習後、空母ジョージ・ワシントンを中心とした空母打撃群が23～25日の3日間、韓国海軍と黄海で通常の合同演習を実施。韓国南部の釜山港に寄港する。

10年3月には、韓国哨戒艦「天安」が北朝鮮の攻撃で沈没する事件が発生、その後、同年11月には北朝鮮による韓国・延坪島砲撃事件が起きている。日米韓3カ国の合同軍事演習を実施する背景に、こう

した北朝鮮の動きを牽制（けんせい）する狙いもある。

一方、韓国紙の朝鮮日報は14日、在韓米軍のサーマン司令官が、朝鮮半島有事のさいの「戦時作戦統制権」を韓国軍に移管した後も、連合軍司令部を存続させて韓国人が司令官を務める案を非公式に提案したと報じた。韓国政府筋の話としている。

米韓連合軍司令官は在韓米軍司令官が兼ねており、現在はサーマン氏が務めている。戦時作戦統制権は15年末に移管される予定。

北朝鮮による挑発の可能性が高まったと受け止められるなか、米韓連合軍の解体が抑止力低下につながることを憂慮したものともみられる。一方、韓国国防省高官は14日、この報道を否定した。

## 中国外交部、日米韓の合同軍事演習に言及

2012/06/15(金) 10:12 Searchina

米国防総省はこのほど、日米韓の合同軍事演習を6月中に朝鮮半島の南海域で行うことを発表した。中国国際放送局が報じた。

中国外交部の劉為民報道官は14日、日米韓が合同軍事演習を行うことについて、「国際社会、特にアジア・太平洋諸国は、朝鮮半島およびアジア地域の平和と安定を確保することに尽力すべきで、逆効果となることはしないはずであると中国は考えている」と表明した。（編集担当：村山健二）

## 日米韓軍事演習の目的と、中国へのメッセージとは

2012/06/16(土) 11:05 Searchina

日米韓が中国の近海で軍事演習を予定している。米国防総省は13日、「日韓と合同で海上軍事演習を行う。同演習は6月21日から22日、朝鮮半島南沖で実施される」とする声明を発表し、「同演習はいかなる国家の領海も侵犯しない」と強調した。中国網日本語版（チャイナネット）が報じた。以下は同記事より。

同演習終了後、米韓は6月23日から25日に黄海で、空母を出動させる軍事演習を実施する予定だ。一部の報道はこれらの動きに対し、「韓国はこれまで日本との合同演習に消極的であったが、何を理由に今回の態度の変化に至ったのか。一連の軍事演習は、北東アジアに何をもたらすのか」と懸念している。

中国の軍事評論家の尹卓氏は、米国の同演習の目的は明らかだとし、「北朝鮮に対する威嚇と、日米韓が堅固な同盟関係を築いていることを中国に伝える目的がある」と指摘した。

日米韓の同演習の政治的意義は、軍事的意義を上回る。米国は日韓を巻き込むことで、北東アジアにおける「アジア版NATO」の形成を推進し、朝鮮半島に対する干渉の強化に向け、日韓（特に韓国）からの支持を得ようとしている。

3カ国は今後、朝鮮半島に対する行動で団結を強めるだろう。この動きは北朝鮮に向けられたものであるが、中国側の出方を伺う意味の方が大きい。

韓国の李明博（イ・ミョンバク）政権はこれまで、日米との合同軍事演習に意欲的であった。しかし同政権は国内の政治勢力から「売国奴」と非難されることを懸念し、日本との合同演習に消極的な態度を示していた。しかし李明博大統領は政権退陣を控えており、政治的な懸念が解消されたため、今回の演習に踏み切った形だ。同演習は、今後の日米韓の軍事同盟関係に対して、有利に働くと見られる。（編集担当：米原裕子）